秦野高校の歴史講座（創立100年草創140年）

三郡共立学校設立～奈珂中学校設立

1872（明治5）年 かつての藩校文武館廃止（大蔵省布達により）、小田原英学校（共同学校）が小田原藩主大久保家の浜御殿を校舎として開校。

1876（明治9）年 足柄県が神奈川県に編入される。小田原師範学校設立。

1879（明治12）年 経費削減のため小田原師範学校廃止。六郡共立小田原中学校設立。

1881（明治14）年 津久井郡が離脱し、五郡共立小田原中学校となる。

1884（明治17）年 山口佐七郎、中村舜次郎などが小田原中学校を大住郡に移し、再興をはかろうとしたが反対され、最終的に五郡共立小田原中学校も廃止が決議される。
（五郡共立中学校事故あって休業中となる。この年県内に農民騒擾が多発し、武相困民党の暴動も発生する）。

1886（明治19）年 宮田寅治らの尽力により、大住郡金目村坪之内の宗信寺の本堂を仮校舎として「三郡共立学校」開校。 初代校長隅田伊賀彦。一方、小田原には足柄下郡有志により足柄下郡立小田原英学校を開校。

1893（明治26）年 金目小学校新築、旧校舎を400円で買収、生徒全員移転、寄宿舎も移す。

1900（明治33）年 郡制改正により（中郡立）中郡学校と改称。

1902（明治35）年 国の教育方針として、実業教育を奨励したので、農業科を加設し、校名を中郡立農学校と改称。

1908（明治41）年 農学校が県移管、平塚に移転。残された校舎を各種学校として再興を計画。

1909（明治42）年 私立育英学校開校。初代校長太田澄三郎（東京開成中学校教頭）。

1923（大正12）年 関東大震災によって校舎倒壊、復旧困難となり、中郡二十七か村組合立中学校設立準備運動起こる。大磯町東小磯「妙大寺」の本堂を仮校舎として授業再開（住職は教頭の飯久保義学）。

1924（大正13）年 第二代校長に秦野町長佐野義職就任。

1926（大正15）年 組合立奈珂中学校設立。初代校長山本茂。10月29日開校式行われる。

メモ

奈珂中学校設立～県立秦野高等学校まで

1927（昭和２）年 小田急小田原線開通。

1929（昭和４）年 校名を神奈川県奈珂中学校と改称。
御大典記念として、プラタナスを植樹。

1931（昭和６）年 校歌制定。

1935（昭和10）年 県に移管され、神奈川県立秦野中学校と改称。 秦野中学校校章制定。

1937（昭和12）年 10周年記念として銀杏を植樹。

1939（昭和 14）年 秦野市菩提の学校報国造林で植樹が始まる。
1944（昭和 19）年 学徒動員はじまる。４．５年生横浜の日産自動車。３年生横須賀海軍工廠平塚分工場、
１．２年生は近隣の農家へ動員。
1945（昭和 20）年 終戦。GHQ「日本教育制度に対する管理政策」を発表。
1947（昭和 22）年 教育基本法の公布。六・三・三・四制の学制施行。
（学制改革により併設中学設置）
校内 10000 メートル大会がはじまる。
1948（昭和 23）年　神奈川県立秦野高等学校と改称。

メモ

県立秦野高等学校～

1950（昭和 25）年　創立以来初の女子生徒３名が入学。
1951（昭和 26）年　創立 25 周年記念事業の一つとして、前田夕暮の歌碑が建設される。
1964（昭和 39）年　創立 40 周年並びに新校舎落成記念式典挙行
1972（昭和 47）年　野球部準優勝。石井隆選手高校総体で八百、千五百メートルで優勝。
1974（昭和 49）年　この年女子生徒 86 名が入学。本格的男女共学がはじまる。
男女共学以後の歴史
1976（昭和 51）年　創立 50 周年並びに新館落成記念式典挙行
1981（昭和 56）年　学区改編され秦野伊勢原学区となる。
1986（昭和 61）年　開校 60 周年・草創 100 年祭式典挙行
1992（平成４）年　体育館落成式典挙行
1996（平成８）年　創立 70 周年・草創 110 年記念式典挙行
2002（平成 14）年 ２学期制を実施
2006（平成 18）年 創立 80 周年記念式典挙行
2007（平成 19）年 新たな三学期制を実施
2010（平成 22）年 神奈川県「学力向上進学重点」校に指定される。教室にエアコン導入
2011（平成 23）年 65 分授業開始
2016（平成 28）年 ICT 利活用授業研究推進校の指定事業開始　創立 90 周年記念式典挙行
2020（令和２）年 耐震化工事着工
2022（令和４）年 STEAM 教育研究推進校の指定事業開始

メモ

年　　組　　番　氏名